

(様式6)

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年12月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	2873600411		
法人名	医療法人社団 西はりまクリニック		
事業所名	西はりまグループホーム 昌仙庵		
所在地	兵庫県たつの市誉田町福田780 - 40 (電 話) 0791 - 62 - 5600		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成20年11月10日	評価確定日	平成20年12月 2日

【情報提供票より】(平成20年 9月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 7人、 非常勤 9人、 常勤換算12.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円
敷 金	有(135,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 250 円	昼食	350 円
	夕食 300 円	おやつ	200 円
	または1日当たり	1,100 円	

(4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1	2	要介護 2	8		
要介護 3	6	要介護 4	2		
要介護 5	0	要支援 2	0		
年齢	平均 82.8 歳	最低	66 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西はりまデンタルクリニック・藤末内科
---------	--------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

兵庫県たつの市の東部福田楽々山ふもとにある「西はりまグループホーム昌仙庵」は、太子竜野バイパスの太子北インターから北へ約2分の民家や田畑の自然環境に恵まれた所にある。ホームは医療法人社団を母体にしてクリニックや歯科医院があり、同敷地内には社会福祉法人「円勝会」の介護老人福祉施設や障害者施設などの施設群があり、地域には福祉の里として根付いている。開設より5年が経ち、職員や入居者にも落ち着いた雰囲気の中で、1階・2階と2ユニットに18名の方が和やかに生活を営んでおられる。広いホールは食堂と居間を兼ねており、多くの作品や本に囲まれて、それぞれの役割を持って生活が来ている。運営母体のクリニックとの連携の良さが入居者・家族ともに安心感を深めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 前回の評価から、運営推進会議の参加者の拡大を検討され、近隣の地区の民生委員や協力委員に参加をお願いしたり、家族にも交代で参加を促したりして実施出来ている。また、ユニット間の階段での転倒防止に、手作りの木製の折れ戸を設置して、入居者の安全な生活に取り組まれている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 自己評価に対して、原点に立ち返りながらの業務の振り返りと捉え、ユニット毎に職員全員で取り組まれている。地域との交流の大切さやケアの意義についての気付きや振り返りの機会となっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 2ヶ月毎に自治会長・民生委員・市職員・家族代表・入居者代表・ホーム代表の参加のもと運営推進会議は開催出来ている。前回の評価を踏まえて、参加者の枠の拡大を検討され、近隣地域の民生委員や協力員の方や、家族についても交代での参加を呼びかけて実施出来ている。会議の内容は、ホームの日々の暮らしぶりや季節の行事など、認知症ケアについての意見交換なども行っている。今後は季節行事に合わせた開催なども検討されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 年に2回家族会を開催したり、面会時の日頃の生活についての報告時やケアプランの作成時、家族の意見を聞いたり、交流を図るようにしている。毎月担当職員から手紙を書き、日頃の生活の様子や金銭管理について報告が出来ている。今後はさらに苦情や不安をくみ取る機会として、意見箱の設置やアンケートの取り組みなどを検討し、実施されることが望ましい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域の季節行事に参加したり、ホームで行うクリスマス会や素麺流しなどに地域の方を招待したりして一緒に楽しみながら、交流を図っている。今後は、子供との交流の場を持ったり、認知症ケアについての知識や技術を地域へ還元できる場の提供を考えられているので期待したい。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「ホスピタリティを大切に、良質で心のこもった医療と介護を提供し、地域の医療と福祉に貢献する。」に基づいて、「もてなしの心」や「させて頂いている」という気持ちを持ちながら、暮らしを共にすることを実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関先に掲示しており、職員も名札と一緒に携帯している。クリニックと行われる朝礼時や忘年会・仕事始めなどに理事長とも理念に基づくケアについての話しが出来ている。日々のケアではもてなしの気持ちを持ち、言葉使いに気をつけるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事である笹山の森コンサートに参加したり、敬老会に参加したり、またホームで行うクリスマス会や素麺流しなどに近所の人を招待したりして交流を図っている。	○	学校から遠方にあるホームであるが、子供が好きな入居者が多いので、今後子供との交流の場を持ったり、認知症ケアについての知識や技術など地域に還元できる場があればと考えられているので、継続して検討して欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について、自らの業務の見直しと意義付けの機会と捉え、ユニット毎に職員全員で振り返りながら取り組まれている。この1年間で、ユニット間の階段での転倒防止に手作りの木製折れ戸を設置したり、運営推進会議の参加者の拡大を検討して、他の地区の民生委員や協力委員の参加や家族にも交代での参加を促したり出来ている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1回開催されており、ホームでの行事内容の報告や認知症のケアについての意見交換を行っており、認知症に対する理解が深まっている実感を得ている。参加者は自治会長・民生委員・市の職員・家族代表・ホーム管理者や代表などで、今年度は参加者の拡大を図っている。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	平成20年9月より市内でのグループホームの連絡会が活動を初め、市の担当者と伴に参加し、意見交換を行っている。今後も、定期的に関係・参加する予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、入居者の担当職員が、日頃の生活の様子や変化を伝える手紙を作成され、小遣いの出納帳などの金銭の報告と一緒に送付している。また、面会に来られた家族には直接暮らしぶりを伝えたり、2ヵ月に1回発行するホームだよりで、行事の様子や職員の交替などを伝えるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を行い、日頃の報告や意見交換の機会を持っているが、不満や苦情を受け入れる体制としては充分でない。	○	サービス内容についての家族などからの苦情や不満をくみ取れる機会として、家族会・アンケート・意見箱などを検討し、受け止める体制を明確にされることを望む。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年1年間で職員3人の異動があったが、一度に複数にならないよう配慮したり、入居者には混乱が少ないように、慣れた職員とペアでケアに当たるようにし、十分な引き継ぎが行われるようにしている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修や、法人内外の研修への参加は出来ているが、職員のレベルに合わせた段階的な育成のための計画はなく、受けた研修の伝達もやや不十分である。	○	職員の経験年数やレベルに合わせて、限られた人ではなく職員全体が系統立った研修が受けられるよう計画を作成し、研修を受ける機会を増やして欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの協議会は平成20年9月に立ち上がり、参加出来ている。会では、他のホームとお互いの取り組みやケアについて意見交換出来ており、今後も継続して開催・参加の予定である。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には、住み慣れた自宅へ行き、本人や家族との面接を行ったり、在宅での担当ケアマネジャーからも生活の状況を確認しながら、本人を少しでも理解するように務めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一方的な介護する側に立つのではなく、入居者から、昔ながらにお菓子作りや料理などを教わりながら、生活を支援していくように心掛けている。また、回想帳を活用して、昔の道具や行事などの話を聞きながら教えて貰ったりして、支え合う関係を大切にしている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望や思いは、その時々を確認しながら行う様にしている。上手く表現出来ない人には、いつもと違う表情や言動に特に注意を払うように心掛けているが、職員により対応の差があると捉えられている。	○	職員が皆で入居者の変化や思いを察知出来るように、相談や検討を行いながら、思いに寄り添うケアが出来るように取り組んで欲しい。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の思いや希望を踏まえて、職員会議で話し合ったり、来所される家族からは要望を聞いたりするが、計画の意見交換までは至っていない。作成した計画書は送付し、確認は行っている。	○	支援経過についての記録を検討し、1ヶ月の入居者の様子をまとめ意見交換をしたり、本人・家族・職員との話し合いの場を持ちながら、計画を作成できるような取り組みを期待する。
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在6ヶ月毎に計画の見直しを行っており、期間内に見直しが必要な変化が生じた入居者はいなかった。見直しを行った時の状態の変化の記載や介護度の表示に不明な点がある。	○	入居者の状態の変化について、話し合った上で計画書にも記載し、現状に即した計画の見直しに取り組んで欲しい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が出来ない時など外泊の送迎介助を行ったり、通院の介助を家族と協力して行ったりしている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を主治医にしている人や、当クリニックに主治医を変更する人に対し、希望に応じて対応している。訪問看護との連携も取れており、受診の介助をしたり、緊急時に、併設するクリニックへの相談や受診も出来ている。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	併設の訪問看護ステーションと連携を取り、医療連携体制についての書面での説明や同意は行われているが、元気な人が多く重度化した時を想定した話し合いや研修はまだ行っておらず、実際の看取りもない。	○	実際の重度化・終末期のケアの在り方を日頃から話し合い、看取りについてなどの職員教育などの実施を期待する。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対して人生の先輩として尊敬し、プライバシーに配慮した声掛けや対応をするよう心掛けている。また、書類等記録物は事務所で保管し、個人ファイルの背表紙には部屋番号のみ記載するなど取扱いには注意をしている。	○	ホーム便りに掲載されている写真については、写っている入居者全員からの許可をもらった上で掲載されるよう配慮して欲しい。
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩の際には、入居者の希望を尋ね、応じるようにしている。それぞれの生活歴や趣味などをもとに、花の世話や縫い物・料理など、得意なことや好きなことが行え、活躍できるよう支援している。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	クリニックの栄養士がメニューを考え材料が届けられるので、入居者と職員が一緒に準備や調理・片付けを行っている。また、月に1回リクエストメニューの日を設け、買い物から片付けまで皆で行ったり、外食をしたりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回入浴日を決めているが、体調や希望で変更しながら対応をしている。希望者には夕食後の入浴介助も行えている。	○	ホームは、より入居者の希望する曜日や時間に対応できるようにしたいとの思いがあるので、一層の対応を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出や行事の計画には、入居者の希望も聞きながら、少しでも楽しめるよう検討したり、生活歴などから料理や花の世話・縫い物・洗濯物たたみなど役割を持ちながら生活出来るよう支援している。また、習字や絵を描いたり、太鼓やカラオケをしたりと楽しみや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買い物や欲しい物に合わせて、一緒に買い物など外出するよう支援したり、近所の散歩や喫茶店にも出掛けられるよう希望に沿った支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの周りは車の出入りもあるため、安全面を優先して、玄関から外へはキーロック式になっている。外からは自由に入ることができ、勝手口は開錠しているが、洗濯室のドアを開けて入った奥にあり、入居者が自由に入りしている様子は確認できなかった。	○	以前、隣市まで1人で外出した入居者がいたことから、安全面を優先されているが、施錠することでの入居者への影響や弊害を検討する中で、入居者の安全で自由な生活に向けた取り組みを模策して欲しい。

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	クリニックと一緒に、年に2回通報・消火など避難訓練を実施している。自治会長や民生委員とも運営推進会議などで話す機会を持ち、協力に向けて働きかけている。	○	夜間の防災訓練を検討中であり、いろいろな場面を設定して、入居者や職員が安心して行動が出来るよう訓練を実施して欲しい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスを考慮した献立のもと、摂取量などはチェック表にて確認するようにしており、水分については1日1,000mlを目標に摂取できるよう支援し、体調の変化時は特に注意するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には多くの花が飾られ、座って靴を履き替えられるよう長いすが2箇所にある。フロアが広い居間で両端に居室が並ぶ。居間には、入居者や職員の書道や絵などの作品が飾られ、畳のスペースにこたつやテレビが置かれ、生活の場を和ませている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の表札は、入居者それぞれの個性的なものが掛けられており、部屋の中は家族の写真や作品が飾られている。カーテンはホームで用意され一律的な雰囲気もあるが、家族と共に用意された家具やテレビ・畳なども持ち込まれ、入居者が過ごしやすい部屋になるよう配慮している。		

 は、重点項目。